

32. フィールド科学教育研究センター

(1) フィールド科学教育研究センターの教育目的と特徴 32-2

(2) 「教育の水準」の分析 32-3

分析項目 I 教育活動の状況 32-3

【参考】データ分析集 指標一覧 32-5

(1) フィールド科学教育研究センターの教育目的と特徴

理 念

わが国の自然環境を特徴づける森林生物圏と沿岸海洋生物圏は、本来不可分に連環しつつ、私達の生存に計り知れない恵みをもたらしてきた。しかし、近年における人間活動の加速度的な膨張は、このような自然の不可分のつながりを著しく分断し、深刻な地球環境問題を引き起こしつつある。

森と海の豊かな自然の再生と持続的利用には、その間に介在する人里空間のあり方が問題となり、里域生態系解明への新たな挑戦が求められる。このような基本的な考えに基づき、新たなフィールド科学としての森・里・海連環学のフロンティア組織を創生することは意義深いことである。

当センターは、温帯域におけるフィールド科学の教育研究拠点として、人と自然の共存原理に資する新たな科学を創造し、新たな価値観の形成をめざす。

目 標

当センターは、上記の理念を実現するため、以下の点を重点に教育と研究を展開する。

- 森林生物圏、里域生物圏、沿岸海洋生物圏間の連環機構の解明
- 森林生物圏、里域生物圏、沿岸海洋生物圏における基礎科学の展開
- 森林域、里域、沿岸海域における各ステーションの長期的生態学研究拠点としての機能強化
- 自然生態系や地球環境の保全に関する地域に根ざした現場教育と研究の展開
- 森林域、里域、沿岸海域における生物圏情報の発信による社会連携の推進
- 地球環境問題の解決に貢献し得る総合的視点と優れた専門性を兼ね備えた人材の育成

(2) 「教育の水準」の分析

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

<必須記載項目4 授業形態、学習指導法>

【基本的な記載事項】

- ・ 1年間の授業を行う期間が確認できる資料
(別添資料 5232-i4-1)
- ・ シラバスの全件、全項目が確認できる資料、学生便覧等関係資料
(別添資料 5232-i4-2~3)
- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数
(別添資料 なし)
理由：学生は在籍していないので該当なし
- ・ インターンシップの実施状況が確認できる資料
(別添資料 なし)
理由：学生は在籍していないので該当なし
- ・ 指標番号5、9~10(データ分析集)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

2016年度に芦生研究林・北海道研究林・上賀茂試験地を一体とする森林系の教育関係共同利用拠点(森林拠点)が認定され、海系の2つの教育拠点(舞鶴・瀬戸拠点)とあわせて3つの教育拠点を擁する部局となった。第3期中期目標期間においては、これらの教育拠点の活動を促進するための取組みを行った。

- 大学教育の充実に資するため教育関係共同利用拠点として、公開森林実習及び公開臨海実習を実施している。[4.1]
- 森から海に至る流域全体を対象とした森里海連環学実習を公開実習として(京大生とともに)他大学生にも提供してきた。舞鶴拠点と森林拠点の芦生研究林が共同して森里海連環学実習Ⅰを、森林拠点の北海道研究林は北海道大学の教育関係共同利用拠点である厚岸臨海実験所と共同して、森里海連環学実習Ⅱを提供している。海系と森系という異なる教育関係共同利用拠点がそれぞれの特徴を活かしたメニューを共有し融合させることにより、単独の教育拠点では実現が困難と考えられる複合生態系に関する効果の高い共同利用実習を展開している。[4.1]
- 舞鶴拠点と瀬戸拠点では、教育関係共同利用拠点活動の一環として、共同利用運営委員会を合同で開催するのに合わせて、海洋に関するフィールド教育方法の

京都大学フィールド科学教育研究センター 教育活動の状況

検討を行うワークショップを開催している。また、森林拠点では、公開森林実習や森里海連環学実習の受講生を対象としたフィードバックセミナーを実施して、教育効果の確認と実習方法の改良について検討を行っている。[4.1] (別添資料 5232-i4-4 教育関係共同利用拠点実施状況報告書 (フィールド科学教育研究センター、2016~2018 年度))

<必須記載項目 5 履修指導、支援>

【基本的な記載事項】

- ・ 履修指導の実施状況が確認できる資料 (別添資料 5232-i5-1)
- ・ 学習相談の実施状況が確認できる資料 (別添資料 5232-i5-2)
- ・ 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組が確認できる資料 (別添資料 5232-i5-3)
- ・ 履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況が確認できる資料 (別添資料 5232-i5-4)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

(特になし)

<選択記載項目 B 地域連携による教育活動>

【基本的な記載事項】

(特になし)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 舞鶴拠点では、公開実習の中に舞鶴魚市場見学、舞鶴市内の水産加工工場見学とそれぞれの担当者による講義を組み込み、地域の課題への理解を通じた地域連携を進めている。[B.1] (別添資料 5232-iB-1 舞鶴水産実験所公開実習 (2019 年ウェブサイト))
- 公開森林実習では、地域連携による他大学生への教育活動として、地元住民 (猟師) の中山間地の生活に関する講義を設けている。[B.1] (別添資料 5232-i4-4 教育関係共同利用拠点実施状況報告書 (フィールド科学教育研究センター、2016~2018 年度) (再掲))
- 芦生研究林においては、得られた知見を地域に還元し、地域の課題を対象とし地域との協働で教育研究活動を推進するための団体 (美山ソサエティ (仮)) の設立を目指し、研究会などを開催している。[B.1] (別添資料 5232-iB-2 「美山×研究 つながる集会」 実施報告 (2019 年ウェブサイト))

【参考】データ分析集 指標一覧

区分	指標番号	データ・指標	指標の計算式
1. 学生入学・在籍状況データ	1	女性学生の割合	女性学生数／学生数
	2	社会人学生の割合	社会人学生数／学生数
	3	留学生の割合	留学生数／学生数
	4	正規課程学生に対する科目等履修生等の比率	科目等履修生等数／学生数
	5	海外派遣率	海外派遣学生数／学生数
	6	受験者倍率	受験者数／募集人員
	7	入学定員充足率	入学者数／入学定員
	8	学部生に対する大学院生の比率	大学院生総数／学部学生総数
2. 教職員データ	9	専任教員あたりの学生数	学生数／専任教員数
	10	専任教員に占める女性専任教員の割合	女性専任教員数／専任教員数
	11	本務教員あたりの研究員数	研究員数／本務教員数
	12	本務教員総数あたり職員総数	職員総数／本務教員総数
	13	本務教員総数あたり職員総数(常勤、常勤以外別)	職員総数(常勤)／本務教員総数 職員総数(常勤以外)／本務教員総数
3. 進級・卒業データ	14	留年率	留年者数／学生数
	15	退学率	退学者・除籍者数／学生数
	16	休学率	休学者数／学生数
	17	卒業・修了者のうち標準修業年限内卒業・修了率	標準修業年限内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	18	卒業・修了者のうち標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了率	標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	19	受験者数に対する資格取得率	合格者数／受験者数
	20	卒業・修了者数に対する資格取得率	合格者数／卒業・修了者数
	21	進学率	進学者数／卒業・修了者数
4. 卒業後の進路データ	22	卒業・修了者に占める就職者の割合	就職者数／卒業・修了者数
	23	職業別就職率	職業区分別就職者数／就職者数合計
	24	産業別就職率	産業区分別就職者数／就職者数合計

※ 部分の指標（指標番号8、12～13）については、国立大学全体の指標のため、学部・研究科等ごとの現況調査表の指標には活用しません。